

WSJT-X 自動運用プログラム 操作マニュアル

本体 Ver 0.1.6 セットアップ Ver 1.0.5

J11FGX/DU9 Kouichi Ueno

du9@j11fgx.com

WSJT-X 自動運転は Ver0.1.5 まではフリーソフトウェアでしたが、Ver0.1.6 から有料版になりました。JTDX AutoRun と共通のライセンスを使用するため、既に有効な JTDX のキーをお持ちの方は再取得・再購入は不要です。15 日間の試用後はライセンス登録が必要です。本書は本体 Ver 0.1.6 とセットアップ Ver 1.0.5 のインストール、初期設定、自動運転、リモート操作、交信履歴の確認を説明します。

初めて使うときは、WSJT-X を起動して画面の大きさを決めてから、設定画面でボタンの座標と色を登録してください。

利用する前に

オペレーターが監視しながら使用してください。本プログラムは、無人運用のためのものではありません。利用する国・地域の法令と、参加するアワード等の規定を確認し、利用者の責任で運用してください。製作者は、本プログラムの利用によって生じた損害等の責任を負いません。

機能と利用形態

機能	利用形態
WSJT-X 自動運用	有料。15 日間試用可能。JTDX AutoRun・REMOTE と共通キー
WSJT-X リモート運用	有料。AutoRun 本体と共通の 15 日間試用・ライセンス

本書の構成

- 1 インストール
- 2 初期設定の手順
- 3 設定項目の一覧
- 4 自動運転と停止
- 5 リモート運用とライセンス
- 6 交信履歴データの準備
- 7 交信履歴と国の確認
- 8 LoTW と問い合わせ

1 インストール

インストーラーを実行する

1. 20261026_WSJT_AutoRun_Ver0.1.6.zip の ZIP ファイルを解凍します。解凍したフォルダーで Install_WSJT-X_AutoRun.exe を確認してください。
2. 解凍先の Install_WSJT-X_AutoRun.exe を実行します。標準のインストール先は次のフォルダーです。
C:\¥I1FGX¥WSJT-X_AutoRun
3. インストールが完了すると、デスクトップに Ver 0.1.6 のショートカットが作成されます。ショートカットから本体を起動してください。

既存の設定を引き継ぐ

インストール先に settings.ini がある場合、上書きするかどうかの確認画面が表示されます。

選択	動作
いいえ	既存の settings.ini を保持します。
はい	既存ファイルを settings.ini.backup にコピーしてから、新しい設定ファイルを配置します。

通常の設定変更は、本体の「設定」ボタンから行ってください。settings.ini は動作に必要なファイルです。本書で説明する設定画面は Ver 1.0.5 です。設定画面のタイトル欄が入力できない場合は、配布内容と起動しているセットアップのバージョンを確認してください。

周波数リストを追加する場合

既存の settings.ini を保持し、[FREQUENCY] セクションがまだない場合に限り、エディターで次の設定を追加してください。すでにある場合は重複して追加せず、既存の内容を確認してください。配布フォルダーの settings.ini にも記載されています。

[FREQUENCY]

List =

1.8100,1.8400,1.9080,3.5730,5.3570,7.0740,10.1360,14.0740,18.1000,21.0740,24.9150,28.0740,50.3130,50.3230

List の値は、実際の INI ファイルでは途中に改行を入れず、1 行で記述してください。

今回の構成

ファイル	役割
WSJT-X_AutoRun_Ver0.1.6.exe	自動運用の本体
WSJT-X_AutoRun_Setup_ver1.0.5.exe	座標・色・ウィンドウタイトルの設定
settings.ini	動作設定とライセンス情報

2 初期設定の手順

初回起動時と、WSJT-X の画面サイズやボタン配置を変更したときは、座標を設定し直してください。

座標と色を登録する

1. WSJT-X を起動し、普段使う画面サイズと配置にします。
2. 本体の「設定」を押して、セットアップ画面を開きます。
3. 「WSJT-X ウィンドウタイトル」に、操作する WSJT-X のウィンドウタイトルを入力します。セットアップ Ver 1.0.5 では、この欄と「LogQsoTitle」を直接編集できます。
4. 座標を調べる対象のウィンドウをアクティブにし、対象ボタンや入力欄へマウスポインターを移動します。右側の検出表示を見て、対応する欄へ X 座標・Y 座標と色を入力します。
5. 「保存」を押し、設定保存のメッセージを確認します。「終了」で設定画面を閉じます。

送信許可ボタンの色を取得するときは文字の上を避け、背景部分を選んでください。赤色（送信中）、白色（停止・待機）、黄色（タイムアウト時）を区別します。座標は対象ウィンドウをアクティブにして取得してください。

図1 セットアップ画面の例 数値やタイトルは使用環境に合わせて設定します

Ver 1.0.5 では、ウィンドウタイトルと LogQsoTitle を直接入力できます。「ライセンスキー」欄には JTDX AutoRun と同じキーを登録できます。

3 設定項目の一覧

画面の各欄には、次の対象の座標・色・タイトルを設定します。図に表示された数値は例です。

設定項目	設定する内容
WSJT-X ウィンドウタイトル	操作対象の WSJT-X ウィンドウのタイトル。直接入力できます。
送信許可ボタン X・Y 座標	WSJT-X の「送信許可」ボタンの背景部分
ボタン 赤	送信中の送信許可ボタンの色
ボタン 白	停止・待機時の送信許可ボタンの色
ボタン 黄色	タイムアウト時の送信許可ボタンの色（黄色）
停止ボタン X・Y 座標	WSJT-X の「停止」ボタン
ログに記録ボタン X・Y 座標	WSJT-X の「ログに記録」ボタン
LogQsoTitle	ログ記録画面のタイトル。Ver 1.0.5 では直接入力できます。
Log OK X・Y 座標	ログ記録画面の「OK」ボタン
Tx1 入力欄 X・Y 座標	交信相手のコールサインを取得する Tx1 入力欄
Freq 入力欄 X・Y 座標	バンド・周波数を切り替えるコンボボックス
コールサイン と ライセンスキー	JTDX AutoRun と共通のコールサイン・キーを入力。従来の WSJT-X 用キーも使用可能。

ログ記録画面の設定

WSJT-X のログ記録画面を表示し、そのウィンドウをアクティブにして「OK」ボタンの座標を取得します。



図 2 通常のログ記録画面と OK ボタン

ログ記録時にエラーが表示された場合は、オペレーターが内容を確認してください。書き込みエラーの再試行用座標を設定する必要はありません。

4 自動運転と停止

本体画面のボタン

ボタン	操作
自動運転	自動運転の監視を開始します。
停止	自動運転の監視を停止します。送信中に素早く 2 回クリックすると送信解除も行います。
リモート	ブラウザから操作するリモート機能を起動・終了します。
設定	セットアップ画面を開きます。
終了	本体を終了します。

自動運転を開始する

WSJT-X で運用の準備を整え、本体の「自動運転」を押します。本体の状態表示が「自動運転中」になります。WSJT-X の送信状態を画面で確認してください。

送信許可ボタンが黄色や白色に変化したことを検出すると、待機後に「停止」を押し、続いて「送信許可」を押して送信を再開します。現在の実装には 15 秒の待機があるため、検出直後に切り替わるとは限りません。

WSJT-X の「Tx のウォッチドッグタイマー」は、従来の設定例では約 4 分を目安としています。運用に合わせて設定してください。

交信が成立してログ記録画面が表示されると、「OK」を自動で押します。WSJT-X が終了すると、本体の監視も停止状態になります。



図 3 WSJT-X の停止ボタンと送信許可ボタンの例

本日の交信数

本日の交信数は、ログ記録画面の OK 操作を行ったときに加算します。加算の直後に qsocount.txt へ保存し、X で閉じる場合や通常終了時にも保存します。強制終了・異常終了でも、保存完了済みの値は次回起動時に引き継ぎます。保存が完了する前の強制終了は保証できません。日付が変わると当日のカウントを 0 から開始します。

送信を止める

自動再開を止めたいときは、先に本体の「停止」を押してください。送信中であれば、「停止」を素早く 2 回クリックするか、監視停止後に WSJT-X 側で送信を解除します。必ず WSJT-X の表示で停止を確認してください。

自動運転の監視中に WSJT-X 側の「送信許可」だけを押し、監視によって送信が再開されることがあります。

5 リモート運用とライセンス

スマートフォンや別の PC のブラウザから操作できます。リモート操作中も、オペレーターが運用状態を監視してください。

接続する

1. 運用 PC で WSJT-X と本体を起動し、本体の「リモート」を押します。起動中はボタンが「リモート中」に変わります。
2. 同じ LAN 内で使う場合は、ブラウザで運用 PC の IP アドレスとポート番号 8081 を指定します。

接続例 <http://192.168.1.7:8081>

3. LAN 外から接続する場合は、VPN ソフト Tailscale を準備し、Tailscale 上のホスト名などでアクセスします。LAN 内のみの利用では Tailscale は必須ではありません。

接続例 <http://ji1fgx:8081>

どちらの場合も、末尾の :8081 を指定してください。



図 4 WSJT-X AutoRun のライセンス登録済み画面の例

ライセンスを登録する

AutoRun 本体とリモート運用は有料です。15 日間の試用後も使う場合はライセンス登録が必要です。既に有効な JTDX AutoRun のキーをお持ちの方は再取得・再購入する必要はありません。初めて取得する場合は、申請フォームから申し込み、550 円を PayPal で du9@ji1fgx.com へ送金してください。送金時のメモ欄にコールサインを記入してください。

JTDX AutoRun に登録したものと同一コールサインとライセンスキーを、WSJT-X 本体の「設定」画面に入力し、「保存」を押します。WSJT-X 本体と REMOTE の両方に使用できます。従来の有効な WSJT-X 用キーも利用できます。設定情報は各プログラムの settings.ini に保存されます。

申請フォーム https://ji1fgx.com/license_apply.php

接続の解説 <https://ji1fgx.com/260104.html>

ログ表示の解説 <https://ji1fgx.com/260104.php>

試用期間中の画面とライセンス登録

試用期間中は、本体画面の下部に「試用中（残り〇日）」と「利用期限」が2行で表示されます。画面例は残り15日、2026/11/10 23:59まで利用できる場合です。実際の日数と期限は試用開始日より異なります。



画面例 試用中の本体画面

期限前でも設定画面から登録できます

試用期間中でも、本体の「設定」から登録できます。「コールサイン」と「ライセンスキー」に JTDX AutoRun と同じ情報、または発行された WSJT-X 用情報を入力し、「保存」を押してください。

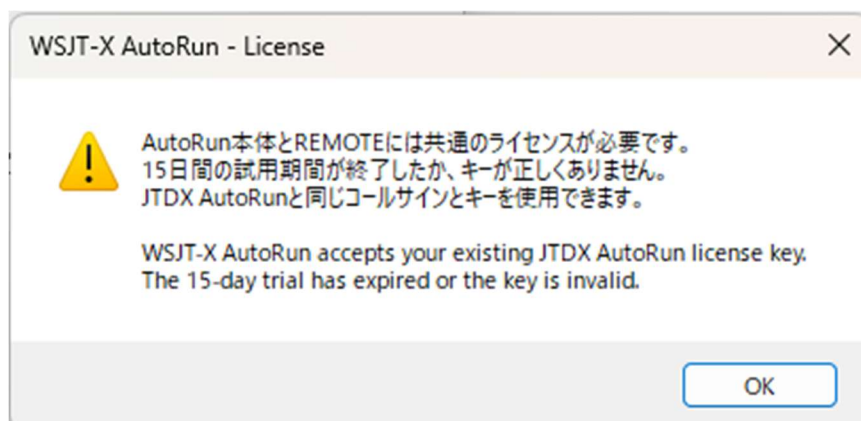
設定画面を終了して本体に戻ると、有効なキーの場合は「ライセンス登録済み」と1行で表示され、ウインドウの高さも短くなります。試用期限まで待つ必要はありません。

設定の保存では、[LICENSE]の licensekey・callsign に加え、既存の trialstart（試用開始日）と trialhash（試用履歴の検証値）も保持します。試用情報を削除したり日付を書き換えたりしないでください。JTDX と WSJT-X で設定ファイルの保存場所は別です。

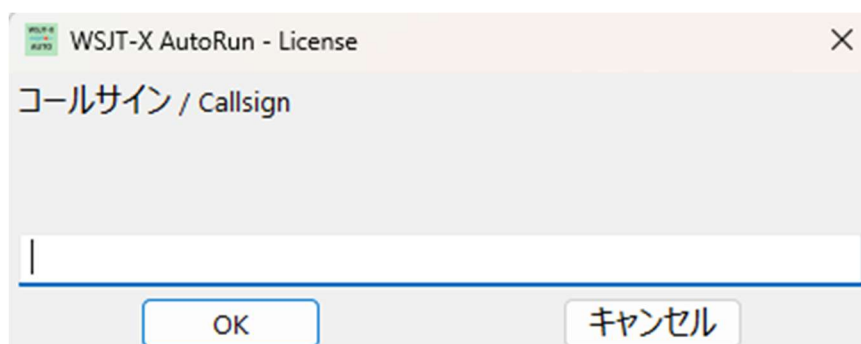
試用期限が過ぎたときの画面

試用期限後に有効なキーがない場合は、次の警告が表示されます。キーが正しくない場合にも同じ警告が出ます。「OK」を押し、コールサイン、共通ライセンスキーの順に入力してください。

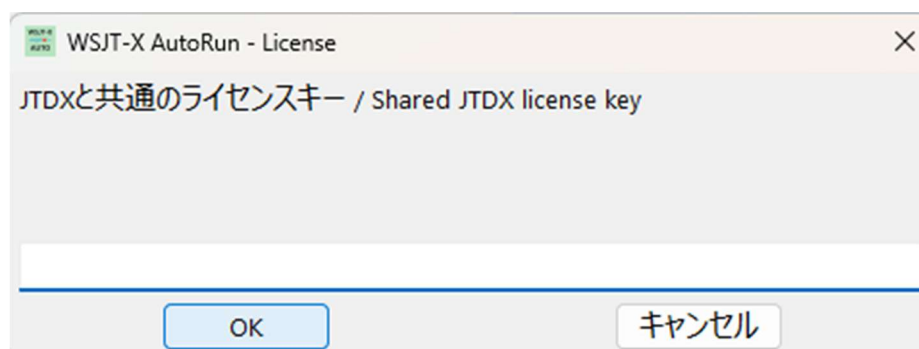
1 警告を確認して「OK」を押す



2 登録するコールサインを入力して「OK」を押す



3 JTDX AutoRun と共通のライセンスキーを入力して「OK」を押す



正しい情報を入力すると保存され、本体の利用を開始できます。入力をキャンセルした場合は本体が終了します。期限後も利用を続けるには、有効なキーの登録が必要です。

6 交信履歴データの準備

過去の交信履歴を表示するには、C:¥Logs¥logbook.db が必要です。WSJT-X や Hamlog で保存した ADIF 形式のログを、データベースに変換して準備します。

過去ログを取り込む

1. 配布フォルダーに同梱された adi_to_db.1.5.exe を実行します。この初回取り込み用プログラムは、解凍した配布フォルダーで実行してください。
2. 「ADI ファイル選択」から、取り込むログファイルを選びます。
3. 出力先を C:¥Logs¥logbook.db に指定します。
4. 「変換開始」を押し、処理の完了を確認します。

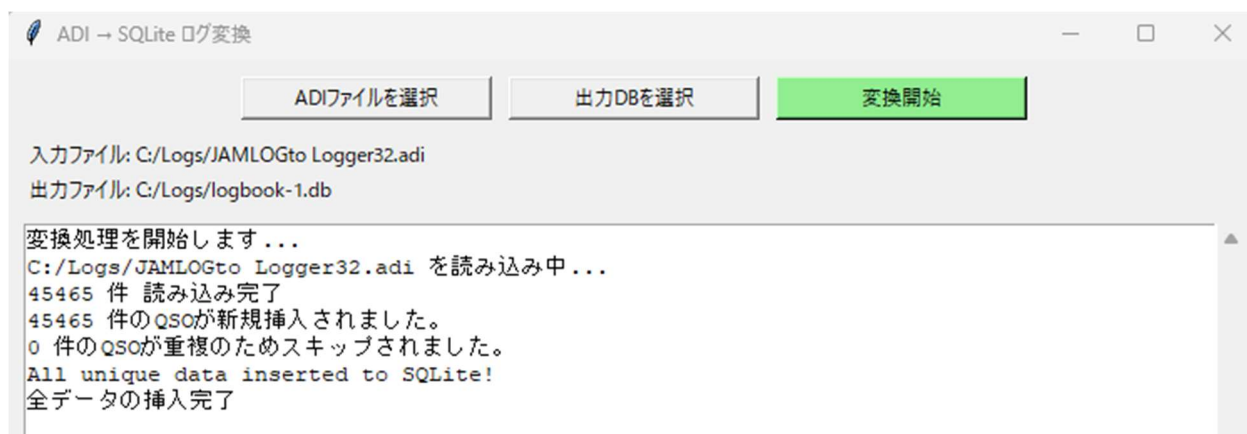


図 5 ADIF ログをデータベースへ変換する画面

新しい交信を継続して記録する

交信記録をリアルタイムに logbook.db へ追加するには、別途配布されている log_receiver_Ver2.6.6 が必要です。過去ログの初回変換と、運用中の継続記録はそれぞれ別の役割です。

リモート画面でログを表示する場合にも、このログ受信プログラムを使用します。ログ表示を使わない場合、リモート操作のためだけに導入する必要はありません。

確認するファイル

ファイルまたはプログラム	用途
C:¥Logs¥logbook.db	交信履歴のデータベース
adi_to_db.1.5.exe	ADIF ログの初回取り込み
log_receiver_Ver2.6.6	運用中の交信記録を継続して追加
dxcc_list.db と iota_list.db	国・地域や IOTA を確認するためのデータ。インストーラーから C:¥Logs へ配置されます。

7 交信履歴と国の確認

コールサインを検索する

WSJT-X の Tx1 入力欄へ交信相手のコールサインを入力するか、交信操作で自動入力された状態で Enter キーを押します。交信履歴がある場合、Dupe Check 画面に過去ログが表示されます。

Tx1 欄には送信文が表示されています。交信相手のコールサインが含まれた状態で Enter キーを押してください。

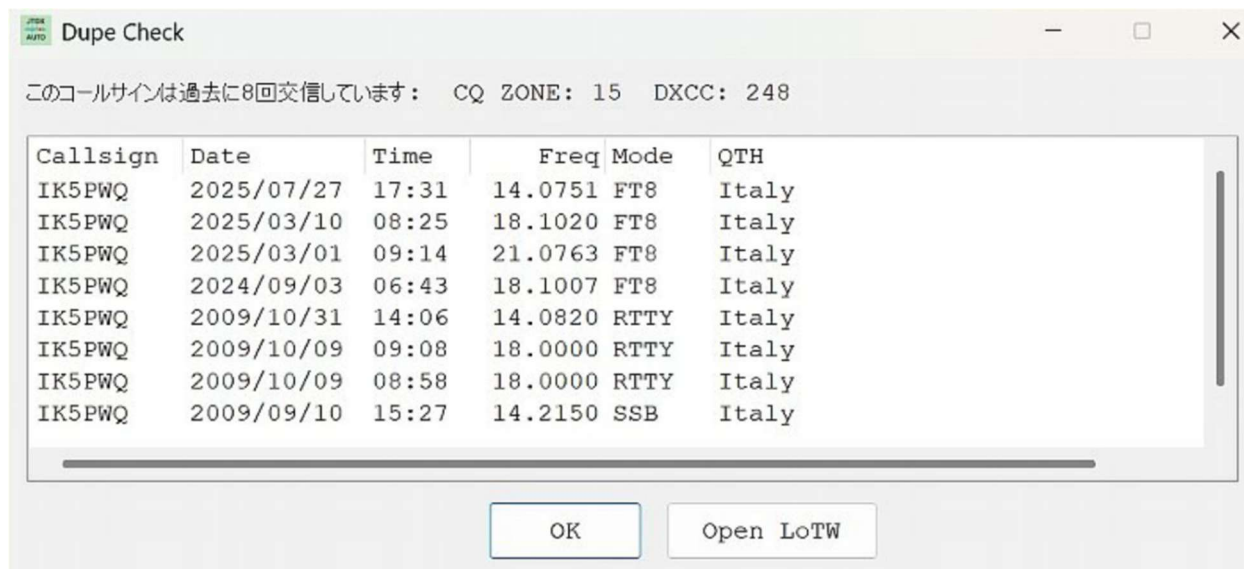


図 6 交信履歴の表示例

表示結果から調べる

操作	表示される内容
コールサインをダブルクリック	QRZ.COM の該当コールサインのページ
QTH または国名をダブルクリック	Google Maps での場所の確認
QTH または国名を右クリック	その国・地域との交信状況の確認
Open LoTW をクリック	LoTW の該当する国・地域の交信確認ページ

未交信の局やプレフィックスを調べる

未交信のコールサイン、またはプレフィックスのみを入力して Enter キーを押すと、「未交信」と表示され、QTH や国・地域を確認できます。QTH 欄から Google Maps を開いて場所を調べることもできます。

履歴が表示されない場合は、まず C:\Logs\logbook.db が準備されているかを確認してください。

8 LoTW と問い合わせ

LoTW でコンファーム状況を確認する

Dupe Check 画面の「Open LoTW」を押すと、該当する国・地域の交信を確認するための LoTW ページが開きます。表示には LoTW アカウントでのログインが必要です。



図 7 Open LoTW ボタンの表示例

1 Records Shown (1-1) (0.007911 seconds elapsed)

	Call sign	Worked	Date/Time	Band	Mode	Freq	QSL
Details	J11FGX/DU9	K4M	2009-10-16 04:49:00	17M	RTTY	18.10000	MIDWAY ISLAND

Most recent QSO record received 2025-08-13 04:39:02Z

Select QSOs to List

Call sign worked: May use wildcards (? and *)

Your call sign:

Starting Date: Time:

Ending Date: Time:

Mode: Band:

☒ Show confirmed QSOs only

DXCC Entity:

Sort by ☐ Descending

Award Account

Submit Query Form

Common Queries

図 8 LoTW での交信確認画面の例

問い合わせと配布情報

製作者 Kouichi Ueno J11FGX/DU9

メール du9@j11fgx.com

ソフトウェア情報 <https://j11fgx.com/software.php>

Web サイト <https://j11fgx.com>

WSJT-X AutoRun Ver 0.1.6 の本体と REMOTE は、JTDX AutoRun と共通の有料ライセンスを使用します。15 日間の試用後は有効なキーが必要です。

Copyright ©2025 Kouichi Ueno J11FGX/DU9 All Rights Reserved.